

【FD 研究会】FD活動を支援いたします。まず、ご相談ください。

●総合理工学研究科 FD 研究会

第 3 回

「第三者評価結果の報告及び継続的改善への取り組み」

2011 年 3 月 4 日 「UP」(第 49 号)

- | | |
|---|-------------------------|
| (1) 総合理工学研究科に対する 2010 年度第三者評価結果
の報告 | 橋本巨(総合理工学研究科長) |
| (2) <問題点として指摘すべき事項>に対する継続的改善
への取り組み | 増田良介(総合理工学研究科総合理工学専攻主任) |
| (3) 2010 年度自己点検・評価報告及び
2011 年度ミッションシェアリングシート
<討論> | 新屋敷直木(総合理工学研究科教務委員) |

第 2 回

「学位論文審査と授業形態－現状と課題及び今後の展開－」

2010 年 8 月 3 日 「UP」(第 47 号)

- | | |
|--|--|
| (1) 学位論文審査の現状と課題及び今後の展開 | 橋本巨(総合理工学研究科長) |
| (2) 国外の大学における学位論文審査方法について

<討論> | 山本佳男(総合理工学研究科機械・航空宇宙コース教授)
中村俊一(総合理工学研究科建築・土木コース教授) |
| (3) 専修ゼミナール・共同ゼミナールの現状と課題及び
今後の展開
<討論> | 増田良介(総合理工学研究科総合理工学専攻主任) |

第 1 回

「総合理工学研究科の現状と課題」

2010 年 3 月 4 日 「UP」(第 46 号)

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| (1) 総合理工学研究科 設立以来の経過報告・現状説明・
指導実施例 | 橋本巨(総合理工学研究科長) |
| (2) 教員資格審査及び資格再審査の現状と課題 | 西山幸三郎(総合理工学研究科副研究科長) |
| (3) 博士論文審査の現状と課題
<総合討論> | 増田良介(総合理工学研究科総合理工学専攻主任) |

●工学研究科 FD 研究会

第 1 回

「工学研究科における国際化と英語教育」

2010 年 11 月 18 日 「UP」(第 48 号)

- | | |
|--|---------------------------------|
| (1)東海大学の国際化と工学研究科への期待 | 内田裕久(国際教育センター所長) |
| (2)工学研究科における取組みの概要説明 | 山本佳男(工学研究科機械工学専攻教授) |
| (3)英語による専門授業の事例紹介 I
電気電子システム工学専攻 | 庄善之(工学研究科電気電子システム工学専攻准教授) |
| (4)英語による専門授業の事例紹介 II
土木工学専攻 | 中村俊一(工学研究科土木工学専攻教授) |
| (5)英語による専門授業の事例紹介 III
機械工学専攻 | 榎谷和義(工学研究科機械工学専攻准教授) |
| (6)Teaching English for engineering graduate students
＜パネルディスカッション＞ | Mark Shrosbree(外国語教育センター第一類准教授) |

●情報理工学部(電子情報学部)授業検討会

第 5 回

「授業の品質向上のための授業再設計

ーなにを教えるかのプロから、どう教えるかのプロになるためのノウハウを考えるー」

2007 年 12 月 12 日 「UP」(第 37 号)

■ビデオ有

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| (1)今後の授業アンケートの活用法 | 安岡高志(教育支援センター次長・教育開発室室長) |
| (2)大学生のメンタルヘルスを考える
ー学生への接し方をふまえてー | 有沢孝治(教育研究所講師) |

第 4 回

「入学生の基礎学力の変化に東海大学の教育はどう対応してゆくのか」

2006 年 12 月 13 日 「UP」(第 32 号)

■ビデオ有

- | | |
|--|------------------------------|
| (1)新入生の学力低下と勉学意欲 | 島崎洋治(入試センター所長) |
| (2)付属校における理科教育の現状 | 南里憲三(理学部長＜東海大学一貫教育委員会第二部会長＞) |
| (3)東海大学の教育に求められるもの
ー大学教育は何を目指しどう変わるべきかー | 鶴岡靖彦(教学部長) |
| (4)総合討論 | |

第 3 回

「FDのための教職員組織の機能化に向けて」

2005 年 12 月 3 日 「UP」(第 26 号)

■ビデオ有

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| (1)多様な入試入学者に対する組織教育事例とその問題 | 富山薫順(電子情報学部コミュニケーション工学科教授) |
| (2)学科としての教育方法の改善に対する組織的教育事例 | 濱本和彦(電子情報学部情報メディア学科助教授) |
| (3)専門教育科目における組織的授業評価の導入事例 | 大山龍一郎(電子情報学部電気電子工学科教授) |
| (4)総合討論 | |

第2回

「理想の大学教員と理想の学生、こんなはずでは・・・」

2004年12月22日 「UP」(第24号)

■ビデオ有

- (1)生徒、学生、それぞれの意識下における理想の大学教員
- (2)学生生活を通じて感じた教育機関の理想と現実
- (3)学生中心の授業計画の学生とはどんな学生か?
- (4)義務を果たし、責任を持って普通に生きることの難しさ
- (5)総合討論

根岸博史(電子情報学部経営システム工学科4年次生)
川本知範(電子情報学部コンピュータ応用工学科4年次生)
辛島光彦(電子情報学部経営システム工学科助教授)
穴吹雅敏(電子情報学部コンピュータ応用工学科助教授)

第1回

「学生に聞くー学生が出席したくなる授業とはー」

2003年10月15日 「UP」(第15号)

■ビデオ有

- (1)自由記述式授業評価から考える、学生が求める授業とは?
- (2)担当授業とその展開について
- (3)学生が望む授業と教員が目指す授業
- (4)学生の視点から見た授業のありかた
- (5)総合討論

濱本和彦(電子情報学部情報メディア学科助教授)
浅川毅(電子情報学部エレクトロニクス学科非常勤教員)
藤城武彦(理学部物理学科講師)
福原雅朗(大学院工学研究科電気工学専攻博士課程前期2年)

●情報通信学部 FD 研究会

第3回

「効果的教育のための各学科における組織的取り組み」

2010年12月17日 「UP」(第48号)

<基調講演>

中下俊夫(情報通信学部長)

<各学科の組織的取り組み>

- (1)情報通信学部の英語ー高輪独自の教育を目指してー
- (2)情報メディア学科におけるFD活動と2012年度カリキュラムについて
- (3)組込みソフトウェア工学科における産学連携と実験・実習を通しての実践的教育
- (4)「経営システム工学通論」の教科書作成ーその考え方と内容構成ー
- (5)通信ネットワーク工学科における組織的教育の取り組みと2012年度カリキュラムについて

中山千佐子(高輪教養教育センター准教授)
熱田清明(情報メディア学科主任)
吉田正廣(組込みソフトウェア工学科主任)
根木佐一(経営システム工学科主任)
石井啓之(通信ネットワーク工学科主任)

第2回

「私の受けた授業・私のやりたい授業」

2009年12月15日 「UP」(第45号)

<基調講演>

中下俊夫(情報通信学部長)

<講演>

(1)「プログラミング(C言語)」:意欲を高める

落合昭(情報通信学部組込みソフトウェア工学科講師)

(2)「電気電子回路」:本当に必要な知識とスキルを育てる

須藤裕紀(情報通信学部組込みソフトウェア工学科1年次生)

竹内静香(情報通信学部組込みソフトウェア工学科1年次生)

佐藤弘幸(情報通信学部通信ネットワーク工学科准教授)

(3)「論理回路」:実験を取り入れた授業の試み

秋山駿輔(情報通信学部通信ネットワーク工学科1年次生)

塚本英幸(情報通信学部通信ネットワーク工学科1年次生)

吉田正廣(情報通信学部組込みソフトウェア工学科主任)

川村峰大(情報通信学部組込みソフトウェア工学科2年次生)

井上尚紀(情報通信学部組込みソフトウェア工学科2年次生)

<討論>

第1回

「私の受けた授業・私のやりたい授業」

2008年12月15日 「UP」(第41号)

<基調講演>

「情報通信学部教育の現状と課題」

中下俊夫(情報通信学部長)

(1)私の受けた授業

松本麻弥子(情報通信学部情報メディア学科1年次生)

市川翔康(情報通信学部情報メディア学科1年次生)

(2)私のやりたい授業

福崎稔(高輪教養教育センター主任)

中山千佐子(高輪教養教育センター准教授)

石原辰雄(情報通信学部経営システム工学科教授)

<討論>

●工学部 FD 研究会

第1回

「初年次教育に関する学部・学科の取り組み」

2009年2月25日 「UP」(第42号)

<各学科での取り組み>

押野谷康雄(工学部動力機械工学科教授)

中原義昭(工学部生命化学科教授)

片山恵一(工学部応用化学科教授)

室谷裕志(工学部光・画像工学科准教授)

大江俊昭(工学部エネルギー工学科教授)

大山龍一郎(工学部電気電子工学科教授)

宮沢靖幸(工学部材料科学科教授)

渡部憲(工学部建築学科准教授)

中野友裕(工学部土木工学科准教授)

槌谷和義(工学部精密工学科准教授)

奥山淳(工学部精密工学科講師)

落合成行(工学部機械工学科准教授)

中篠恭一(工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻講師)

<総合討論>

●工学部・情報理工学部合同 FD 研究会

「入門ゼミナールに関する工学部・情報理工学部の取り組み」

2010年8月25日 「UP」(第47号)

(1)各学科からの報告(1)

片山恵一(工学部応用化学学科教授)

庄善之(工学部電気電子工学科准教授)

山田豊(工学部材料科学科教授)

中野友裕(工学部土木工学科准教授)

<討論>

(2)各学科からの報告(2)

小金澤鋼一(工学部機械工学科教授)

望月明(工学部医用生体工学科教授)

稲垣克彦(情報理工学部コンピュータ応用工学科准教授)

<討論>

(3)入門ゼミナールの学生アンケート結果報告

押野谷康雄(教育支援センター次長)

●開発工学部 FD 研究会

第8回

「開発工学部における初年次教育の実践」

2010年3月15日 「UP」(第46号)

<第一部>

「本年度の開発工学部の初年次教育の展開」

(1)沼津教養教育センターの取り組み

中野博昭(沼津教養教育センター主任)

(2)ぷらっと Room の「数理基礎力強化プログラム」の取り組み

福島甫(ぷらっと Room 室長)

<第二部>パネル討論

「今後、初年次教育をどのように発展させたらよいか」

(1)今後のフォローアップ、展開の課題

(2)学科・センター横断的協力の深化

(3)4年次までの今後の組織的教育への展開

パネリスト: 中野博昭(沼津教養教育センター主任)

福島甫(ぷらっと Room 室長)

田中啓夫(開発工学部情報通信工学科教授)

榊原学(開発工学部生物工学科教授)

中村昭宏(沼津教養教育センター教授)

佐野彰弘(ぷらっと Room 相談員)

「開発工学部における初年次教育」

2008年12月26日 「UP」(第41号)

＜第一部＞

「最近の新入生についての現状分析」

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| (1) 沼津教養教育センターから見た最近の新入生 | 中野博昭(沼津教養教育センター主任) |
| (2) 高校における最近の教育内容・質の変化 | 佐野彰弘(ぷらっと Room 相談員) |
| (3) ぷらっと Room 学習相談コーナーから見えるもの | 福島甫(ぷらっと Room 室長) |
| (4) 基礎教育科目と個人相談室の連携について | 山本義郎(教育支援センター学習支援室室長) |

＜第二部＞パネル討論

「今後、初年次教育を卒業までの組織的教育プログラムにどのように組み込み、発展させたらいいのか」

- (1) 各学科にとって重要な基礎学力は何か？
- (2) 各学科教員は、基礎学力養成に何を行ってきたか、今後、何を行うべきか？
- (3) 各学科と沼津教養教育センターは、今後、どのように連携すべきか？

パネリスト： 東恵子(開発工学部感性デザイン学科教授)
田中啓夫(開発工学部情報通信工学科教授)
金子友彦(開発工学部物質化学科教授)
藤井功(開発工学部生物工学科准教授)
杵淵嘉夫(開発工学部医用生体工学科教授)
及び第一部講演者

「開発工学部におけるキャリア教育を中心とした学生支援」

2007年12月25日 「UP」(第37号)

- | | |
|-------------------------------|--|
| (1) 開発工学部のキャリア支援教育の現状について | 竹本憲治(開発工学部就職委員長) |
| (2) 開発工学部各学科におけるキャリア支援教育の取り組み | 森本忠夫(開発工学部感性デザイン学科准教授)
水野秀樹(開発工学部情報通信工学科教授)
勝井明憲(開発工学部物質化学科教授)
榊原学(開発工学部生物工学科教授)
望月昭(開発工学部医用生体工学科教授) |
| (3) 他大学のキャリア教育事例紹介 | 国下隆良(株毎日コミュニケーションズ就職情報事業本部
横浜支社キャリアサポート課長) |

＜パネル討論＞

「開発工学部としてのキャリア支援教育はどうあるべきか」

「開発工学部における組織的教育の過去・現在と未来」

2006年12月25日 「UP」(第32号)

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| (1) 感性デザイン学科のFD活動ー過去・現在・そして未来へー | 野須潔(開発工学部感性デザイン学科教授) |
| (2) 情報通信工学科における教育の過去・現在と未来 | 福島甫(開発工学部情報通信工学科教授) |
| (3) 組織的教育ー物質化学科(素材工学科)の取り組みー | 岩元和敏(開発工学部物質化学科教授) |
| (4) 組織的教育への取り組みについてー過去・現在・未来ー | 林真紀夫(開発工学部生物工学科教授) |
| (5) 臨床工学技士の養成 | 杵淵嘉夫(開発工学部医用生体工学科教授) |
| (6) 開発工学部が目指す教養教育について | 池田良彦(沼津教養教育センター教授) |
| (7) 総合討論 | |

第4回

「開発工学部における組織的教育の課題と展望」

2005年12月22日 「UP」(第27号)

- (1) 高大連携と大学教育への円滑な導入
- (2) 学生相談室の機能拡張ーぶらっと Room の現状と課題ー
- (3) 授業改革のための電子教材の活用ー現状と今後の取り組みー
- (4) 産学連携教育の現状と今後の展開
- (5) 総合討論

水野秀樹(開発工学部情報通信工学科教授)
進士昌明(開発工学部情報通信工学科教授)
田中啓夫(開発工学部情報通信工学科教授)
高正博(開発工学部情報通信工学科教授)

第3回

「開発工学部における組織的教育への取り組み」

2004年12月24日 「UP」(第24号)

- (1) 多様な入学者の個性を伸ばす実践的理工学教育システムの全体像
- (2) 高大連携教育の現状と今後の取り組み
- (3) 個別学習相談・指導の現状と課題
- (4) 電子教材の活用とブレンディング教育法
- (5) 産学連携教育のねらいと進め方
- (6) 総合討論

上村税男(開発工学部長)
椎名宮雄(開発工学部感性デザイン学科教授)
進士昌明(開発工学部情報通信工学科教授)
田中啓夫(開発工学部情報通信工学科教授)
高正博(開発工学部情報通信工学科教授)

第2回

「電子教材を活用した授業改革」

2003年10月31日 「UP」(第15号)

- (1) 電子教材の効用とe-L教室の活用
- (2) 効果的な電子教材の作り方・見せ方
ーinstructional design から見た三つの事例ー
- (3) 教材サーバへの登録ー教材作成と登録の方法ー
- (4) 総合討論

田中啓夫(開発工学部情報通信工学科教授)
野須潔(開発工学部情報通信工学科教授)
大塚志穂(教学部沼津教学課一級技術員)

第1回

「効果的な授業の実践」

2002年12月7日 「UP」(第8号)

- (1) 理解を助けるWeb教材をめざしてー初等物理学での模索ー
- (2) マルチメディア教室はFD活動の場ー授業の触媒だ!
- (3) 「中国語CAI」開発と実践そして効果および我国のe-ラーニングにおける本ソフトウェアの位置づけ
- (4) 新入生を対象とした創成型科目“プレゼミナール”
- (5) “授業通信”を活用したオンライン的授業評価の試み
- (6) 小テストを活用した授業の試み
ー対面講義・Web学習ブレンディング方式授業の実施ー
- (7) 総合討論

松浦執(沼津教養教育センター助教授)
藤原勉(九州東海大学工学部総合教育助教授)
伊原奉賢(東海大学福岡短期大学国際文化学科助教授)
伊津信之介(東海大学福岡短期大学情報処理工学科教授)
勝井明憲(開発工学部素材工学科教授)
中野多一(開発工学部素材工学科教授)
金子友彦(開発工学部素材工学科助教授)
勝井明憲(開発工学部素材工学科教授)
野須潔(開発工学部情報通信工学科教授)

●海洋学部 FD 研究会

第 5 回

「海洋学部におけるFD活動の現状と課題」

2007 年 12 月 19 日 「UP」(第 37 号)

(1)東海大学の今後のFD活動について

川野辺裕幸(教育支援センター所長)

(2)授業でのドロップアウトを防ぐ試み

齋藤聡(清水教学課技師補)

組織的教育のための出席情報の活用について

—退学者の減少を目指して—

(3)清水教養教育センターにおける取り組み

大石友彦(清水教養教育センター教授)

—初年次における力学教育—

(4)海洋教育における現状と課題

千賀康弘(海洋学部環境情報工学科教授)

—海洋実習と「海洋環境士」資格教育—

(5)授業アンケート・卒業アンケート結果

轡田邦夫(海洋学部海洋科学科教授)

(6)海洋学部活性化への職員の取り組み

風間公彦(清水教学課課長補佐)

(7)総合討論

第 4 回

「海洋学部における海洋教育改善の現状評価と課題」

2006 年 12 月 20 日 「UP」(第 32 号)

(1)海洋学部における海洋教育の取り組み

上野信平(海洋学部長)

(2)学部における海洋教育の経緯

轡田邦夫(海洋学部海洋科学科教授)

(3)講義科目の現状と課題

大石友彦(清水教養教育センター教授)

(4)実習科目の副教材「海のテキスト」の作成

轡田邦夫(海洋学部海洋科学科教授)

(5)船上実習用視聴覚教育システムの整備

守屋洋(清水教学課係長)

(6)「海洋環境士」資格取得コース

千賀康弘(海洋学部環境情報工学科教授)

(7)社会教育活動の一環としての海洋教育の実践

加藤義久(海洋学部海洋科学科教授)

澤本彰三(海洋研究所教授)

上野信平(海洋学部長)

荒木直行(船舶運行課長)

河内尚(海洋調査研修船望星丸船長)

釘宮秀友(海洋学研究科海洋工学専攻博士課程前期2年)

(8)総合討論

第 3 回

「学部における海洋教育の推進と今後の展望」

2005 年 12 月 17 日 「UP」(第 27 号)

(1)海洋教育の必要性および背景

轡田邦夫(海洋学部海洋科学科教授)

(2)実社会からみた海洋教育への要望

綿貫啓(アルファ水工コンサルタンツ東京支店技術第2部部长)

鉄芳松(鉄組潜水工業所代表取締役)

(3)既存の学部共通科目の位置づけ

「海洋概論」

上野信平(海洋学部長)

「基礎海洋学」

大石友彦(清水教養教育センター)

(4)資格教育コースのねらいとカリキュラム案

千賀康弘(海洋学部地球環境工学科教授)

(5)総合討論

第2回

「海洋学部におけるGPプログラムの現状と今後」

2004年12月18日 「UP」(第24号)

- | | |
|---|------------------------|
| (1)はじめに | 上野信平(海洋学部長) |
| (2)文部科学省によるGPプログラムの現状について | 轡田邦夫(海洋学部海洋科学科教授) |
| (3)学部におけるGPプログラムNo.1
「教育支援工房システムの構築－学生修学カルテシステムの構築－」 | 寺尾裕(海洋学部マリンデザイン工学科教授) |
| (4)学部におけるGPプログラムNo.2
「体験型実習を基盤とした自然科学の実践教育プログラム」 | 轡田邦夫(海洋学部海洋科学科教授) |
| (5)海洋学部が取り組んできた教育活動の紹介
「地域社会への取り組みを中心に」 | 齋藤寛(海洋学部清水教養教育センター助教授) |
| (6)総合討論 | |

第1回

「学部基幹科目としての海洋実習教育の現状と問題点」

2004年2月20日 「UP」(第19号)

- | | |
|----------------------------|--|
| (1)海洋実習の現状紹介海洋実習委員長 | 根元謙次(海洋学部海洋資源学科教授)
渡邊啓介(海洋学部マリンデザイン工学科助教授)
水島毅(海洋学部水産学科増殖課程講師)
大西修平(海洋学部水産学科水産資源開発課程講師)
佐藤治夫(海洋学部航海工学科航海専攻教授)
加藤義久(海洋学部海洋科学科教授)
福江正治(海洋学部海洋土木工学科教授)
千賀康弘(海洋学部地球環境工学科教授)
酒井亨(大学院海洋学研究科海洋工学専攻博士課程前期1年) |
| (2)海洋実習に対する視点・要望 | 岡田聡(大学院海洋学研究科海洋科学専攻博士課程前期2年)
吉尚倫(大学院海洋学研究科水産学専攻博士課程前期1年)
村山司(海洋学部水産学科水産資源開発課程助教授) |
| (3)海洋実習運用上の問題点・課題に対する要望・提案 | 竹内恒(清水船舶運航課長) |
| (4)総合討論 | |

●伊勢原校舎FD研究会(医学部・健康科学部)

第6回

「チーム連携教育プログラムの具体化に向けて～他大学先行事例と本学でのトライアル成果より～」

2011年1月28日 「UP」(第49号)

- <講演>
「地域医療支援を目指した他職種連携学部一貫教育
－札幌医科大学における取り組み－」
苗代康可(札幌医科大学医療人育成センター)
- <報告>
「チーム連携教育トライアル「学生カフェ2010」の成果と課題」
佐藤幹代(健康科学部看護学科講師)
- <パネルディスカッション>
「チーム連携教育プログラムの具体化に向けて」
パネリスト: 谷亀光則(医学部医学科准教授)
岡部明子(健康科学部看護学科准教授)
稗田里香(健康科学部社会福祉学科講師)
苗代康可(札幌医科大学医療人育成センター)

第5回

「チーム連携教育の Good Idea はこれだ！」

2010年1月26日 「UP」(第45号)

＜パネルディスカッション＞

「チーム連携教育の Good Idea」

ディスカッサー： 6グループ代表者

第4回

「チーム連携能力の育成に向けた教育方略」

2009年1月27日 「UP」(第41号)

＜基調講演＞

「Interdisciplinary team care at the University of Michigan
Geriatrics Center: How to train a flexible, creative team.」

Ruth Campbell(東京大学客員研究員、元ミシガン大学・
ターナークリニック部長、医療ソーシャルワーカー)

＜話題提供＞

(1)健康科学部(看護学科・社会福祉学科)における
チーム連携教育の現状と課題

佐藤正美(健康科学部看護学科准教授)

稗田里香(健康科学部社会福祉学科講師)

(2)医学部におけるチーム連携教育の現状と課題

谷亀光則(医学部医学科准教授)

＜全体討議＞

第3回

「対人援助職として必要なコミュニケーション能力を育成するには」

2008年1月29日 「UP」(第38号)

(1)社会福祉援助技術論におけるケースメソッド導入の試み

菱川愛(健康科学部社会福祉学科講師)

(2)模擬患者を活用した授業展開と新カリキュラムに向けての
コミュニケーション教育の検討状況

中津川順子(健康科学部看護学科准教授)

小島善和(健康科学部看護学科准教授)

(3)医学部におけるコミュニケーション教育の概要と展開

灰田宗孝(医学部医学科教授)

＜パネルディスカッション＞

「コミュニケーション能力を育成するための教育方略」

パネリスト： 船水浩行(健康科学部社会福祉学科准教授)

菱川愛(健康科学部社会福祉学科講師)

中津川順子(健康科学部看護学科准教授)

小島善和(健康科学部看護学科准教授)

灰田宗孝(医学部医学科教授)

吉井文均(医学部医学科教授)

第2回

「社会に貢献できる保健医療福祉専門職の育成を目指して－今後求められる専門職像とは？－」

2007年1月30日 「UP」(第33号)

(1)各学科の育成目標(目標としている専門職像)の現状と課題

溝口満子(健康科学部看護学科教授)

北島英治(健康科学部社会福祉学科教授)

灰田宗孝(医学部医学科教授)

＜パネルディスカッション＞

「利用者は保健医療福祉専門職に何を求めているのか？

谷亀光則(医学部付属病院患者支援センター長)

－現場責任者とともに考える－」

上野陽子(医学部付属病院看護部長)

清田光子(医学部付属病院在宅医療室長)

永井雅子(秦野保健福祉事務所副技幹)

伊藤崇博(丹沢レジデンシャルホーム施設長)

薄井洋子(潤生園訪問介護部統括部長)

「伊勢原校舎における実習教育の現状と課題ーヒューマン・ケアを学習するための導入教育ー」

2006年1月27日 「UP」(第28号)

- | | |
|---|----------------------|
| (1)学びの統合としての実習 | 式守晴子(健康科学部看護学科教授) |
| (2)看護学科の臨地実習授業評価への取り組み | 志水恵子(健康科学部看護学科教授) |
| (3)社会福祉学科の感性教育 | 松本雅之(健康科学部社会福祉学科教授) |
| (4)実習導入教育の現状と課題 | 西原留美子(健康科学部社会福祉学科講師) |
| (5)OSCE Objective Structured Clinical Examination:
客観的臨床能力試験 | 渡邊俊之(医学部医学科非常勤教員) |
| (6)教育計画部の活動 | 灰田宗孝(医学部医学科教授) |

●チャレンジセンター現代GPシンポジウム

「USRー社会貢献を通じた大学と社会の新たな連携」

2007年3月22日 「UP」(第34号)

■ビデオ有

<基調講演>

「本学の教育と社会貢献を飛躍させるチャレンジセンターの役割」

高野二郎(学長)

<パネルディスカッション>

「大学は社会貢献を通じて行政・企業・NPO/NGOとどのような関係を構築すべきか」

高野二郎(学長)

金子信夫(秦野市教育長)

神戸好夫(大日本印刷株式会社CSR推進室長)

菅野啓子(秋田県こどもの日本語ネットワーク事務局長)

●総合教育センターFD 研究会

「現代文明論としての文理融合科目の展開」

2008年1月17日 「UP」(第38号)

■ビデオ有

- | | |
|--|-------------------|
| (1)現代文明論としての文理融合科目とは | 加藤泰(総合教育センター所長) |
| (2)思想を培うためにーものの見方、および歴史に位置づけて考えることについて | 加藤次直(総合教育センター准教授) |
| (3)私たちの環境世界を考察するためにー生命と環境 | 佐藤恵子(総合教育センター教授) |
- <全体討論>
- 「現代文明論としての文理融合科目のあり方について」

●外国語教育センターFD 研究会

第8回

「Can-doリストを使って学生のPDCAをどう動かすのかー すべての教員が共通認識をもって2010年カリキュラムに対応するために」

2009年7月17日 「UP」(第45号)

<特別講演>(通訳付)

「The CEFR in the Language Curriculum: Practices and Issues」 Anthony Green(University of Bedfordshire
(CRELLA 研究所主任研究員))

<シンポジウム>(通訳付)

(1)PDCAとは? 押野谷康雄(教育支援センター次長・教育開発室室長)

— なぜ必要か、どういうPDCAが求められているのか

(2)Can-do リストとPDCAサイクルについて 松本佳穂子(外国語教育センター第一類教授)

<全体討論>

コメンテーター: 奥田良二(外国語教育センター所長補佐)
山本義郎(教育支援センター学習支援室室長)

第7回

「外国語教育センターのCan-Doリスト構築の試み」

2009年3月13日 「UP」(第42号)

(1)Can-Doリストとは 松本佳穂子(外国語教育センター第一類准教授)

(2)CEFRと他大学の英語のCan-Doリストについて 藤田智子(外国語教育センター第一類准教授)

(3)東海大学における英語の必修科目のCan-Doリスト構築に
ついて 奥田良二(文学部英語文化コミュニケーション学科教授)
稲垣善律(外国語教育センター第一類講師)

第6回

「多様化する学生にどう向きあうのか？」

2008年12月6日 「UP」(第41号)

■ビデオ有

<第一部シンポジウム>

パネリスト: 遠藤由貴(湘南健康推進室管理医)
有沢孝治(健康推進センター付文学部講師)
押野谷康雄(健康推進室相談員・産業カウンセラー工学部教授)
カーティス・ケリー(大阪学院大学教授)

指定討論者: 佐藤靖彦(外国語教育センター所長補佐)

<第二部分科会>

(1)日本語の部

遠藤由貴先生、有沢孝治先生、押野谷康雄先生とのケーススタディーと質疑応答

(2)英語の部

カーティス・ケリー先生とのワークショップ:「Understanding Your Students」

第5回

「FD義務化に向けてー外国語教育センターの取り組みー」

2008年5月23日 「UP」(第39号)

■ビデオ有

- | | |
|--|------------------------|
| (1)今東海大学に求められるFD義務化とその活動 | 押野谷康雄(教育支援センター教育開発室室長) |
| (2)2010年カリキュラム改訂の中で外国語教育センターに
求められていること | 田中康夫(外国語教育センター所長) |
| (3)授業評価アンケートの分析から見える改善目標 | 田中康夫(外国語教育センター所長) |

第3回

「多様化する学生に対する動機付けの工夫ー外国語教育センターの取り組みー」

2007年10月12日 「UP」(第36号)

■ビデオ有

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| (1)初修外国語の授業でドロップアウトを防ぐ工夫 | 阿部三男(外国語教育センター第二類教授) |
| (2)多様な学生に対する動機付けの工夫 | 菅家知洋(外国語教育センター第一類講師) |
| (3)東海大学のこれからのFD活動のありかたについて | 安岡高志(教育支援センター次長・教育開発室室長) |

第2回

「外国語教育センターと教材ー学生をやる気にさせる魅力的な教材とは?ー」

2007年1月13日 「UP」(第33号)

■ビデオ有

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| (1)インターネットを用いた副教材の試み | 佐藤靖彦(外国語教育センター第二類教授) |
| (2)中国語研究室ホームページとCAI授業の紹介 | 豊嶋裕子(外国語教育センター第二類助教授) |
| (3)コリア語の新統一教材について | 中島仁(外国語教育センター第二類講師) |
| (4)英語統一プログラムとその教材について | 田中哲(外国語教育センター第一類助教授) |
- <シンポジウム>
- 「英語統一プログラムの教材について」
- | |
|--------------------------------|
| 田中哲(外国語教育センター第一類助教授) |
| 黒田学(外国語教育センター第一類助教授) |
| 藤田智子(外国語教育センター第一類助教授) |
| マーク・シュロズブリー(外国語教育センター第一類特任講師) |
| チャールズ・コワルスキー(外国語教育センター第一類特任講師) |
| 末松郁美(教養学部国際学科3年次) |
| 石山敏明(理学部化学科3年次) |
| 大野絢子(理学部化学科3年次) |
| 古瀬勇士(理学部化学科3年次) |
| 秋山篤史(理学部化学科3年次) |
| 高梨聖子(文学部英語文化コミュニケーション学科4年次) |
| 井和田薫(政治経済学部経営学科4年次) |
| 諸橋直岐(政治経済学部経営学科4年次) |

「外国語教育センターにおける様々な授業改善の取り組みとプロジェクト」

2006年1月14日 「UP」(第28号)

■ビデオ有

<シンポジウム>

「学生をやる気にさせ、成果を上げる授業とは？」

藤牧新(外国語教育センター第一類助教授)

藤枝美穂(外国語教育センター第一類助教授)

惟村宣明(外国語教育センター第二類助教授)

<発表>

(1)英語学習法の指導

田中哲(外国語教育センター第一類助教授)

(2)演劇式トレーニングによる実践的フランス語学習法

惟村宣明(外国語教育センター第二類助教授)

(3)マルチメディア英語リメディアル教材開発のその後

藤枝美穂(外国語教育センター第一類助教授)

—ICTを活用したブレンド型の授業を目指して—

小平昌子(外国語教育センター第一類非常勤教員)

(4)英語発信能力を高める取り組み

藤田智子(外国語教育センター第一類助教授)

—東海大学総合英語力検定コース—

小平昌子(外国語教育センター第一類非常勤教員)

●外国語教育センター・留学生教育センター合同FD研究会

「東海大学の留学制度の更なる発展を目指して」

2008年1月12日 「UP」(第38号)

■ビデオ有

<報告>

1. 日本人学生と留学生との協働活動の意義

(1)キャンパスを外国語相互学習の広場に

—留学生と日本人学生の合同授業報告

(中国語と日本語の場合)

森山美紀子(外国語教育センター第二類准教授)

峯谷秀美(留学生教育センター非常勤教員)

(2)留学生と日本人学生合同授業の試み—国際関係と日本

藤巻裕之(留学生教育センター特任講師)

2. 派遣留学の意義と成果

(1)「クイーンズランド留学」経験がもたらした学生の成長

稲垣善律(外国語教育センター第一類講師)

<シンポジウム>

両センター初の共同活動を振り返って

「第一回東海大学国際フェア」における取り組みと成果

(1)アンケート結果報告

外国語教育センター実施分: 西川恵(外国語教育センター第一類講師)

留学生教育センター実施分: 斉木ゆかり(留学生教育センター准教授)

(2)パネルディスカッション

各国ブース代表学生

(3)日本人学生から見たフェア

田中哲(外国語教育センター第一類主任)

(4)留学生から見たフェア

宮城幸枝(留学生教育センター所長)

●国際教育センターFD 研究会

第2回

「日本語教育実践の試み」

2011年3月11日 「UP」(第49号)

<教育実践報告会>

[第1部]音声指導・聴解・読解

- (1)リビア人学習者の音声認識について
- (2)中級学習者のための正確さと流暢さの強化タスクから
見たもの
- (3)読解ピア活動における役割分担について
- (4)大学の言語教員は言語形式とコンテンツにどのように
立ち向かうべきか
- (5)Moodleを使用した「できるまで音読」の学習者間フィードバック

- 北村よう(国際教育センター准教授)
清水慶子(国際教育センター非常勤教員)
元田静(国際教育センター准教授)
増倉洋子(国際教育センター非常勤教員)
葛西里奈(国際教育センター非常勤教員)

[第2部]表現・その他

- (1)初級話し方授業の現状と課題
- (2)中級学習者を対象にした会話タスク
ーその実践と評価の試みー
- (3)初中級クラスでのジャーナル・暗唱活動について

- (4) 外国語学習と異文化理解をどうつなげるか
ー合同授業:留学生<中国語話者>と
日本人<中国語学習者>の場合ー

- 久野由宇子(国際教育センター非常勤教員)
小笠恵美子(国際教育センター非常勤教員)
斉木ゆかり(国際教育センター教授)
久津間幸子(国際教育センター非常勤教員)
西山友恵(国際教育センター非常勤教員)
宮城幸枝(国際教育センター次長)
峯谷秀美(国際教育センター非常勤教員)
森山美紀子(外国語教育センター第二類准教授)

第1回

「学生ボランティアの協力を得た教育活動」

2010年1月30日 「UP」(第45号)

<シンポジウム>

- (1)日本人学生と留学生との合同授業の成果について
(「社会言語学」履修学生・別科中級クラス)
- (2)別科日本語研修課程の日本人ボランティア学生の協力を
得る取り組み
- (3)話し方(口頭表現)授業での活用について
- (4)文法授業での活用について
- (5)日本事情の授業での活用について
- (6)その他の授業での活用について

- 岩田祐子(外国語教育センター第一類教授・国際教育センター
国際教育系兼任)
外崎淑子(国際教育センター准教授)
桐原美帆(教養学部国際学科3年次生)
上野是嵩(政治経済学部政治学科2年次生)
村上治美(国際教育センター教授)
久野由宇子(国際教育センター非常勤教員)
小笠恵美子(国際教育センター非常勤教員)
北村よう(国際教育センター准教授)
村上治美(国際教育センター教授)
久津間幸子(国際教育センター非常勤教員)
小林尚美(国際教育センター非常勤教員)

<ディスカッション>

●留学生教育センターFD 研究会

第3回

「語学教育におけるテストの作成について」

2008年10月18日 「UP」(第40号)

■ビデオ有

<シンポジウム>

(1)「聞く」テストの作成について

宮城幸枝(留学生教育センター教授)

田口香奈恵(留学生教育センター講師)

(2)「文法」テストの作成について

北村よう(留学生教育センター准教授)

(3)「読む」テストの作成について

元田静(留学生教育センター准教授)

増倉洋子(留学生教育センター非常勤教員)

西山友恵(留学生教育センター非常勤教員)

(4)「表現」テストの作成について

村上治美(留学生教育センター教授)

久野由宇子(留学生教育センター非常勤教員)

<ディスカッション>

第1回

「学部留学生に必要な支援とは」

2006年9月25日 「UP」(第30号)

■ビデオ有

<発表>

(1)別科日本語研修課程における表現指導

村上治美(留学生教育センター教授)

(2)学部留学生に対する日本語表現指導

斉木ゆかり(留学生教育センター助教授)

(3)学部留学生に対する読解・聴解指導

北村よう(留学生教育センター助教授)

外崎淑子(留学生教育センター講師)

元田静(留学生教育センター講師)

<シンポジウム>

「学部留学生に必要なこと」

小泉真人(文学部広報メディア学科教授)

庄祖栄(文学部広報メディア学科4年次)

朴ヨンミ(文学部広報メディア学科4年次)

浅野清彦(政治経済学部経営学科教授)

王麗雲(政治経済学部経営学科3年次)

松丸正延(情報理工学部経営システム工学科教授)

ネン・チェチエン(情報理工学部経営システム工学科3年次)

押野谷康雄(工学部動力機械工学科教授)

マトリカ・ウプレティ(工学部動力機械工学科3年次)

●総合情報センター情報教育センターFD 研究会

第1回

「わかりやすいシラバス作成をめざして」

2008年2月23日 「UP」(第38号)

■ビデオ有

(1)「ICT活用教育入門セミナー」の報告

丸山有紀子(情報教育センター講師)

(2)カタカナ語を多用した試み

佐野建樹(情報教育センター非常勤教員、日本電気株)

<フリーディスカッション>

「わかりやすいシラバス作成のために必要なこと」